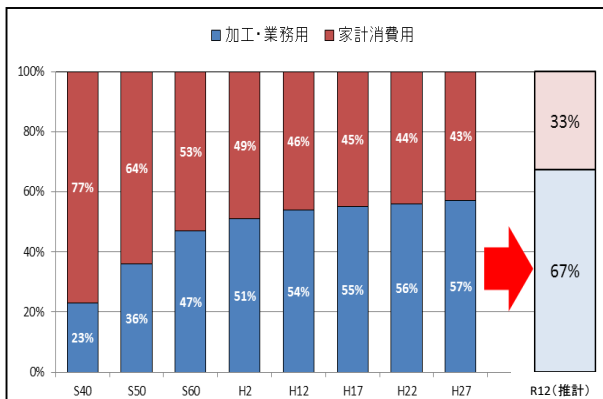


- 増大する加工・業務向け野菜への対応強化による所得向上
- 輸入割合が高い加工・業務用野菜の生産振興による国産への奪還

【現状】

1. 国内仕向野菜に占める加工・業務用野菜の割合

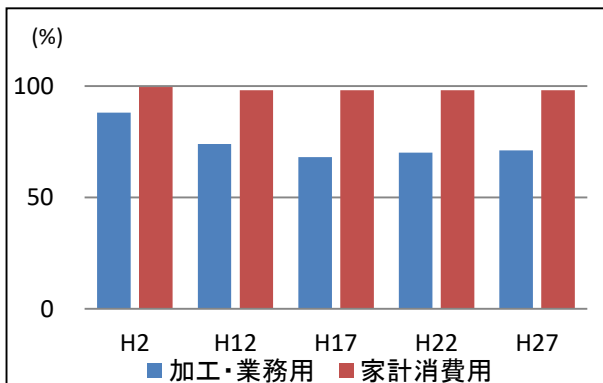


※農林水産政策研究所調べ、H12は本会推計

・野菜国内仕向量の加工・業務用比率は、令和12年に67%まで上昇する予想

・消費の変化に対応し、加工・業務向け野菜の生産拡大が必要

2. 国内仕向野菜に占める国産の割合



※農林水産政策研究所調べ

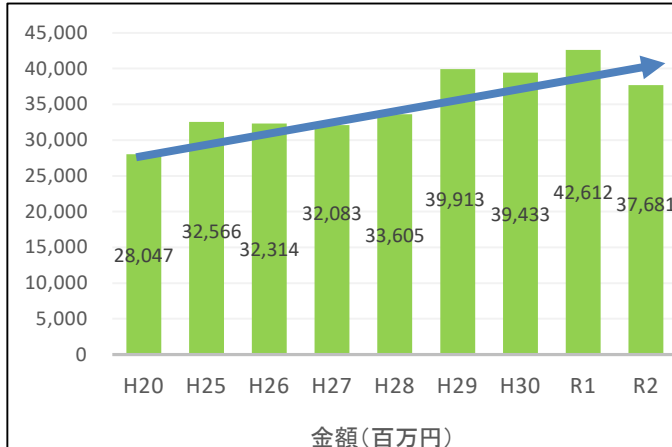
・野菜国内仕向量の加工・業務用の30%を輸入品が占める

・国産化を進め、野菜農家の所得向上が急務

【役割分担】

JA	全農（経済連）
○生産者・法人への栽培提案	○実需ニーズに基づく販売提案および生産振興

3. 本会の加工・業務向け販売実績（都府県本部+青果センター）



・これまで加工・業務向け販売は伸張傾向であったが令和2年度、新型コロナウイルスの影響により減少

・今後、中長期的には需要の拡大が見込まれるため、継続した取り組みが必要

【実行具体策】

○加工・業務向け野菜の生産振興として、適正品種の選定や新技術の導入による収量向上対策および端境期対策に取り組むとともに、実需者ニーズを反映した契約栽培の取り組みを強化し、国産比率の向上と取扱いの拡大をめざす。

＜国産ブロッコリーを原料とした商品開発例＞

